

誰でもわかる外来種対策

～河川を事例として～

生態系グループ 宇根 大介

公益財団法人 リバーフロント研究所では、河川における外来種問題に関して、これまで「河川における外来種対策に向けて（案）（平成13年7月）」、「川の自然をみつめてみよう②-河川の外来種図鑑-（平成17年8月）」、及び「【改訂版】河川における外来種対策の考え方とその事例（平成23年2月）」等を発刊して参りました。

河川における外来種問題は、ハリエンジュによる河積阻害、オオクチバスによる在来魚への影響・被害、シナダレスズメガヤによる礫河原固有種の生息・生育環境の悪化、その他さまざまな外来種による在来種への被圧などとして顕在化しており、河川管理者をはじめ、地方公共団体や市民等からも関心が高まっています。

特に、地域連携による外来種対策の促進を受けて、全国の市民の皆様から外来種対策に関する情報提供など、多くの問合せが寄せられており、こうした背景を受け、これまで発刊した冊子や新たに収集した伝聞情報や現地情報を活用し、学識経験者の指導・助言を頂きながら、市民を対象とした河川における外来種問題の冊子である「誰でもわかる外来種対策～河川を事例として～」を平成24年2月に発刊致しました。



誰でもわかる外来種対策 ～河川を事例として～
2012年2月 初版 第1刷

<基礎編（目次構成）>

1章. 外来種とは？

- 1.1. 外来種とは何か？
- 1.2. つれてこられた外来種

2章. 外来種問題と生物多様性～何が問題なのか？

- 2.1. 生物多様性とその恩恵
- 2.2. 生物多様性の危機
- 2.3. 生物多様性と外来種問題
- 2.4. 外来種問題への国際的取り組み

3章. 河川における外来種問題

～河川でいま何が起きているのか？

- 3.1. 日本の河川と外来種問題
- 3.2. 外来種が河川環境に及ぼす影響

4章. 外来種問題の解決に向けて

- 4.1. 外来生物法の制定
- 4.2. 河川における外来種対策
- 4.3. わたしたちにできる外来種対策

<図鑑編（掲載種）>

●魚 類

チャネルキャットフィッシュ、カダヤシ、ブルーギル、コクチバス、オオクチバス

●植 物

ナガエツルノゲイトウ、イタチハギ、ハリエンジュ、アレチウリ、オオフサモ、ブラジルチドメグサ、オオカワヂシャ、オオブタクサ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ、オオハングソウ、ナルトサワギク、セイタカアワダチソウ、オオカナダモ、ホテイアオイ、シナダレスズメガヤ、カモガヤ、ネズミムギなどのイネ科外来草本、ボタンウキクサ

●両生類・爬虫類・哺乳類

ウシガエル、カミツキガメ、ミシシippアカミガメ、ヌートリア、アライグマ

●底生動物・昆虫類

ウチダザリガニ、アメリカザリガニ、スクミリンゴガイ、カワヒバリガイ、セイヨウオオマルハナバチ

本書は、宝くじの社会貢献広報事業による助成を頂き作成したもので、全国の学校や図書館、当研究所の活動にご理解頂いている市民団体等へ配布させて頂きました。本書を日頃の活動や環境教育等に使用して頂き、河川の生物多様性について考えるきっかけとなり、外来種問題への理解を深める一助となれば、幸いです。